

平成27年度第1回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成27年9月14日（月） 14:00～15:30
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
千葉委員（代表）、貞廣委員（副代表）、横溝委員、池谷委員、
西川委員、松下委員、石坂委員（欠席）、井出委員、徳榊委員、
宮澤委員（欠席）、高樋委員、今中委員

事務局

荻野課長（有隣堂本部）

村田主任（三洋装備）

古川館長、渡邊副館長、和田、味元（山内図書館）

4. 案 件

- (1) 利用者フォーラム新委員の紹介
- (2) 館内案内
- (3) 横浜市山内図書館概要と平成26年度事業報告
- (4) 平成27年度の図書館事業
- (5) ご意見・ご要望

5. 概 要

(1) 利用者フォーラム新委員の紹介（渡邊副館長）

今回から第二期の利用者フォーラムが始まることの挨拶。新委員は図書館の利用者のみならず、地域の各分野で広く活動されている人に参集いただく。広く意見を募り、地域に根差した文化施設としての役割を一層果たしていきたい。

続いて、出席者の自己紹介。

(2) 館内案内（渡邊副館長）

新委員に館内を案内。

館内サイン（平成26年度：人間工学に基づいてリニューアル）⇒児童書架⇒団体貸出室⇒授乳室⇒ウッドデッキ（平成27年度：飲食のできる場所として、敷地内に新設）

⇒展示コーナー（本の一文や追悼展示、月ごとのおすすめ本などを紹介）⇒山内堂（地域刊行物や文具の販売）⇒一般書架⇒マリンジェム（水槽）など。

（３）横浜市山内図書館概要と平成２６年度事業報告（古川館長）

山内図書館の業務内容と事業についてパワーポイントを用いて説明。

初年度の平成２２年度は事業の継承と基盤の整備に努めた。２年目は発展的なサービスを展開、３年目は開館３５周年に当たり、記念事業として東急電鉄と連携して地域開発の歴史に関する講座や、横浜美術大学と連携してジオラマの作成、読書クロスワードパズルなどの事業を行った。４年目は読書環境の整備に努め、館内サインの入れ替えを図った。また、利用者フォーラムの意見が基になり、託児サービスを開始した。５年目の平成２６年度は図書館をはじめ、青葉区役所や市民利用施設と共に読書活動の推進に取り組んだ。継続的に行っている講演会は区と共催で開催し、読書離れが懸念される若い世代に向けて作家柚木麻子さんのトークショーを企画した。また、ビブリオバトルにも着手し、本と出会う場を広げるための活動を行った。

（４）平成２７年度の図書館事業（読書推進活動担当：和田）

山内図書館では読書活動を推進するために平成２７年度から読書推進活動担当を設置。下記の事案に取り組む

①読書に関するイベントカレンダーの作成

青葉区内で開催される向こう３か月分の読書に関する催しを図書館が取りまとめ、カレンダーを作成。山内図書館ホームページ、青葉区役所のホームページに掲載。

②あおば読書活動推進の会を発足

７月に行った２回目の会では体験型ビブリオバトルを開催。青葉区内の２２の貸出施設の方を招き、各館でビブリオバトルの実施にむけて、ビブリオバトルを体験してもらう場とした。８月には奈良地区センターで子どもを対象に、９月には美しが丘西地区センターでビブリオバトルが実施され、１０月以降も２か所の地域ケアプラザで実施が予定されている。

③青葉区内図書貸出施設マップの改訂版の作成

④青葉区役所と共催で作家・林望さんによる講演会を企画

平成２８年１月に「リンボウ先生と愉しむ平家物語」と題し、開催予定

（５）ご意見、ご要望

自由討議。山内図書館について参加者からご意見をいただく。

・リペアー期の会（山内図書館の本の修理ボランティア）。山内図書館での修理講座に参加した有志が立ち上げる。定期的に集まり、山内図書館の本の修理を行うほ

か、年に1回「山内地区センター祭り」に参加。利用者の本の修理サービスを行っている。今後は、自分たちが中心になって、講座を行うなどして、新たな仲間づくりを行っていきたいと考えている。また、図書館内に修理ボランティア用のコーナーが取れば、メンバーが都合のよいときに、立ち寄って修理が行えるので、検討いただければと思う。

- ・図書館ではシルバー世代の姿をよく見かけるが、何をするでもなく日がな一日ぼーっと過ごしている人も多い。先日の鎌倉の図書館のツイッターにもあったように、誰もが利用でき、一日過ごせる場所としての役割は大きいと思う。また、一方でそういう人に向けて何か出来ることはないかとも思う。

- ・中・高生の職業体験を受け入れている。彼らが園児を膝の上に乗せ、読んでくれることがあるが、「小さいときこんなことをしてもらった」「自分のこどものときと同じ本がある」という声を聞く。幼いころから本が身近にあることが大事であることを感じる。

- ・授乳室があるのは便利である。園の保護者の人たちにも伝えたい。

- ・図書館が地域の人と結びついているのに驚いた。書店という仕事柄、本に関するレファレンスを受けるが、場合によっては図書館の方が詳しいと案内することもある。

- ・図書館が色々な地域情報を発信しているのに驚いた。

- ・ウッドデッキは、施設内の飲食スペースとして設置されたそうだが、今後、読み聞かせなどのイベントスペースとしても活用してはどうだろうか。

- ・日曜に住宅のローン相談を行っているが、お子さん連れの利用者が多い。団体貸出という貸出制度を初めて知った。今後利用して、子どものために絵本を借りて提供したい。また、税金や資産運用に関する講座を行っており、講座関連で協力できることがあるかもしれない。

- ・図書館での講演会やイベントの開催当日、地区センターにも問い合わせが多いので、チラシをもらえるとありがたい。

- ・地区センターは地域の人々の居場所づくりの場ともなっており、来館者に折り紙を折ってもらう、折り紙の会などを行っている。図書館と併設しているので、本を媒介とした取り組みがあってもよいかもしれない。子どももよく来るが、ゲームをしている子どもも多い。おすすめの本の紹介のPOPなどをつくってもらい地区センターに掲示し、紹介するなどしてもよいかもしれない。

- ・子どもたちによるおすすめ本の掲示や人気投票などは、見たい人が見るという選択の余地があるので、よいのではないか。学校帰りに集まってくる子どもたちにとって、ロビーはつかのまの息抜きができる貴重な場所と思うので、居心地が悪くならないよう、働きかけには配慮も必要ではないだろうか。

- ・図書館だけでなく、出張読み聞かせなどで地区センターに出かけていくのもよい

のではないだろうか。

・たまプラーザで行われている「軽トラ元気市」で読み聞かせを行っているグループがある。図書館も出張で参加してみてはどうだろうか。

配付資料:会議次第 青葉区読書活動推進目標